

地域支援だより

きらりNet



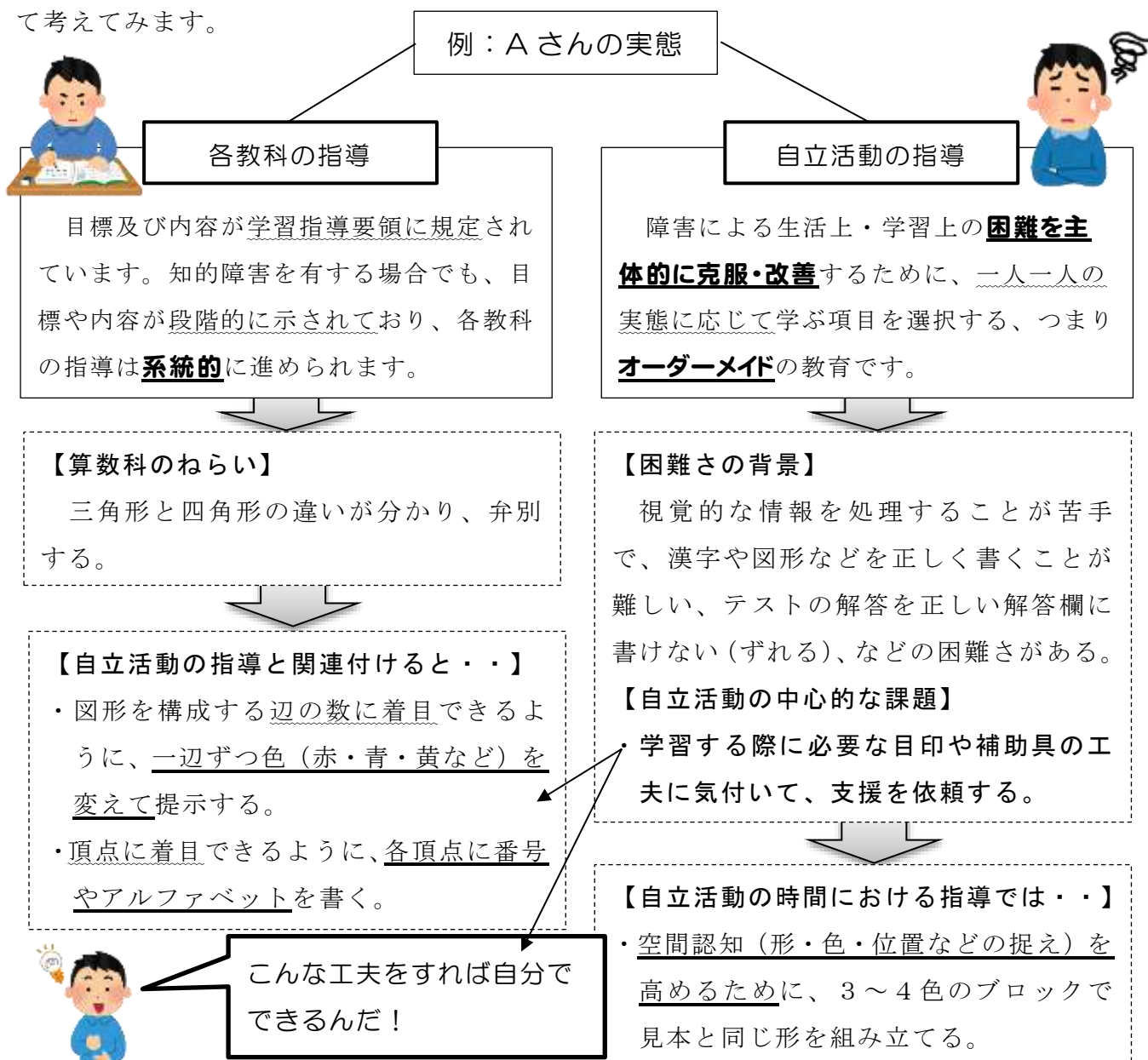
令和3年1月22日

第110号

秋田県立秋田きらり支援学校
地域支援部

自立活動と教科の関連や違いについて

第103号では「自立活動の指導について～各教科とどんな関係？」をテーマに述べました。本号では、目標や指導内容を設定する手続きの違いや、関連付けについて具体例を挙げて考えてみます。



各教科は、各教科のねらいを達成させるための指導であり、その達成のための手立てや配慮点として自立活動の指導を生かすことが、「密接に関連する」こととなります。自立活動の時間における指導での学びを各教科に生かすことが、各教科の主体的な学びにもつながります。

（文責：藤原恵理子）

実践紹介⑦ 自立活動【中学部】知的代替の各教科を学習する学級

中学部3年1組では、自立活動の時間に、教師の援助や言葉に合わせて、思い通りに体を動かしたり、姿勢を整えたりする学習を行っています。

- ① 日常生活で動かしにくい部分に意識を向け、緩やかな動きで緊張を緩める。
- ② 教師に触れられた部分の感覚を感じ取り、様々な部位に気持ちを向けて動かす。
- ③ 自分の体の状態を感じ取り、姿勢を整える。
- ④ 様々な場面で「(姿勢)曲がってる?」と周囲に確かめ、姿勢を意識する。

目指しているのは、生徒がゆったりとした気持ちの中で、思い通りに体を動かし、学習に向かう姿勢を整えていくことであり、言葉を交わしながら課題を進めます。腰や肩に触れ、「ここを伸ばそう」「ゆっくり」「そう!その感じ!」と言葉を掛け、動きを調整しながら体を使えるように学習を進めます。好きな音楽が生徒の学習への主体を育てています。



様々な姿勢の中で教師の援助を受け止め、関わりを通して、相手との共感性が育まれていきます。



右側に乗せている体重を左側に移し、左右のバランスと重心の移動を意識しながら、姿勢を整えています。

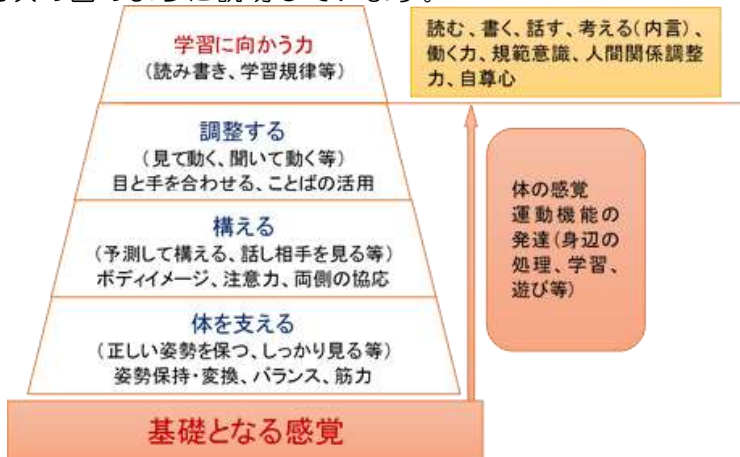


流れる音楽とゆったりとした動きの感覚の重なりが、心と体に広がりをもたらし、学習への主体を引き出していきます。
〈文責：田村祐貴子、二階堂悟〉

教育専門監のコーナー

【成長や発達の基盤となる感覚運動機能】

社会生活を行う力や教科学習をする力のベースにある感覚運動機能。高松養護学校では、その獲得の道筋を次の図のように説明しています。

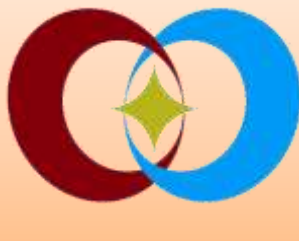


参考：「肢体不自由児の支援のヒント 支援教育だより Part4」
香川県立高松養護学校 <https://www.kagawa-edu.jp/takayo02/htdocs>

《豊かな学びに向かう体づくり》

体を支える、構える、調整するなど、体の様々な部分に意識を向けて姿勢を整える、中学部自立活動の実践。体を思い通りに動かすためには、自分の体の状態を知る固有感覚や前庭感覚が大切となります。様々な学びの基盤となる姿勢の安定。生徒は、関節の動きと体に加わる力を意識しながら姿勢を整えていきます。大切にしているのは、緩やかな動きの中で生まれる様々な感覚とそこから生じる気持ちの変化。教師の関わりを受けとめ、求められる動きの中で心と体に向き合います。そこにあるのは体を動かすことへの苦手意識ではなく、「やってみたい」という前向きな気持ち。思い通りに姿勢を整えられたという自信は、体の協調運動を促し、学びに向かう力の基盤となる、支える、構える、調整する力を育てていきます。

〈文責：二階堂 悟〉



教頭 兜森 宏征 地域支援部主任 大友 明希子

住所：〒010-1409 秋田市南ヶ丘1丁目1番1号

E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018 (889) 8573 FAX：018 (889) 8575

「きらり Net」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>